

ヨネ子年々少なる間、法政乃其女也 十の準備中、又、進退し、  
是より考考と申す

特、其事務友と経緯し、一費、方針を執り、  
人物のあがれ、又、シカゴに覆、隔ると、  
之定然し、其識也、  
人、心と、何、平の、  
中、供、不、航、去、河、中、之、取、余、唯、洲、之、所、揮、之、なり

明治二十五年五月廿日、巴里府、佐友局、

### 伯爵大隈重信殿 宛

三、伸生、の、夕、伯林、赴、日、来、月、中、旬、も、倫敦、の、際、  
西、ハ、あり

前、山田、氏、の、領事、として、  
注、地、の、井、の、注、地、の、良、を、  
仲、者、オ、ト、十、の、結、核、の、事、  
楊、の、事、一、を、  
林、氏、の、中、の、内、の、ボ、ウ、ノ、人、物、  
マ、ル、イ、チ、ハ、ナ、イ、ト、イ、フ、

人物、の、西、地、の、一、才、又、也、ナ、ト



臣等も書道心以之出波たふ一方以法  
導と之の或佩と兼有し生西陸年事一古十一日尚地  
則表し一以符事以休神より其後一古回費高  
務者も其兼提いふ事也其或見開  
所りか也也いふ九十一年に對玉博覧會に我邦戦術後  
一五一動大國に或は深味り得た其功に事(國)  
儀云に於ては千路万歩に補助の安んじ心此際十と好  
結果と得たわ玉家切實に之を所し其高地より日尚海に  
我邦人より佛玉有工業より直曉りて七人物たし五石上  
望徳也

富山縣士族 林忠正 里昂二等領事 山田忠隆

林氏は明治十一年事備立より日中美術に關し一切に賣買とわ  
巨大な開拓とわ能考る其勢力に信用と得た功に万玉博覧會  
に關し意見書に當松公使の事を經り童子次友、送付ありて  
一應の據見ありしに要する其人物は歴りて一政者人下進むる  
も統とありし而して是も其權勢に居せしが其正に得た家、二も  
に當りし此人物を十と一甲の爲見云、其採用ありてわ玉家  
に對し山田氏は其據の以十二年事備立より其里口押し控り  
信用あり、二十六年甲より其兼提を其切實に其術及び其書  
其國語に對し中より其カゴ博覧會に其舞を爲すに其さし  
云はれ角當爲せし補助會に其地悔す、其あり、宗事協友  
其持擇とわたり其有者鄙見開陳り、其特、中より其大を

林氏の中より自ら人たる人物の紹介は遺憾なく扱  
 され、死す所を自ら討てた者も二十号又その有用なる  
 人物の紹介は遺憾なく扱され、そのうち一人は  
 人物の四女は二十号の者なり



佛に巴黎府  
 信友房

大日本國東京府湯者  
 伊勢大隈重信殿

Gump. Kuma.  
 Japan.